

守りたい、ぼくのマドンナ

東京都府中市立小柳小学校 五年 徳留 薫

ぼくは、みかんが大好きです。なぜなら、手軽に食べやすいフルーツだからです。この前、初めて紅まどんなを食べました。ずつしりと大きくて、手でむいていると袋が破けて果汁があふれてきます。口に入れると、まるでみかんゼリーを食べているようにプルンととろける食感です。一個でも大満足でした。

紅まどんなどという名前は、きれいな紅色の見た目と、愛媛県松山市が登場する夏目そう石の小説「坊ちゃん」のヒロインの「マドンナ」が由来だそうです。愛媛県内では栽培されていない貴重な品種で、十一月下旬から十二月末までが旬であることから「一年間お世話になりました。」という感謝を伝えるおせいぼとしても人気が高いそうです。

しかし、今年はみかんが不作でした。夏の暑さが長く続いたことや、雨の量が少なかったことが主な原因です。みかんは最低気温が下がることで色づきますが、十分な寒さが来ないために色づきが遅れたり、強い日差しに当たりすぎて実の色が変わってしまったりしたようです。

学校の授業でも気候変動について学びました。農業は特に気候の影響を受けやすいので、生産を続けていくために暑さに強い品種の開発など適応策を急いでいるそうですが、間に合うのか心配です。

このまま地球温暖化が進んでしまったら、今は一年中いつでも売られていて、食べたいときに食べられると思っているものが、もしかしたら食べられなくなってしまいう日が来るかもしれません。あんなに美味しい紅まどんなをもう二度と味わうことができなくなってしまうかもしれません。そんな悲しい未来にしないために、使っていない部屋の電気はこまめに消す、出かけるときは公共交通機関を使うなど、毎日の生活の中で自分にできる対策を進めていこうと強く思いました。